

第1回 大阪市・八尾市・松原市環境施設組合 廃棄物処理施設建設等委員会 議事要旨

1 開催日時：平成27年6月30日（火）午後3時～午後5時

2 開催場所：あべのルシナス11階 共通会議室

3 出席者

委員：西村委員長、渡辺副委員長、島田委員、鍋島委員、水谷委員

事務局：蓑田事務局長、松田施設部長、細村総務部長、櫛田建設企画課長、藤井建設企画課長代理（司会）、宮井担当係長、室田担当係長

4 議 題

(1) 住之江工場更新計画について 【報告事項】

(2) 「住之江工場更新計画に係る既存建物の利活用調査」実施要領(案)について

(3) 住之江工場の処理方式について

(4) 住之江工場における計画ごみ質の決定について

5 議事要旨

◇委員長の選出

・委員会規則に基づき、委員長に西村委員、副委員長に渡辺委員を選出。

(1) 住之江工場更新計画について 【報告事項】

・事務局から資料のとおり報告があり、住之江工場更新計画の概要等を確認した。

(2) 「住之江工場更新計画に係る既存建物の利活用調査」実施要領(案)について

・事務局提案のとおり実施することとなった。

(3) 住之江工場の処理方式について

・森之宮工場建替計画検討の際に時間をかけて検討しており、その後、技術的に大幅な変更が見られないこと、また近年の受注実績を見ても処理方式の技術的な特徴に変化がないことから、前回の委員会の結果を尊重する方向で進めることを確認した。

(4) 住之江工場における計画ごみ質の決定について

・事務局提案の発熱量やごみ組成を妥当と判断し、提案どおり認めることとした。

6 主なご意見等

【例示：○委員、→事務局】

(1) 住之江工場更新計画について 【報告事項】

○資料2の一般廃棄物基本計画の表紙に策定した平成27年4月と記載をしておくべきである。検討して下さい。

○現在の住之江工場の定格発電能力は11,000kWだが、日常的にはどのくらい発電を行っているのか。

→現状については確認してお知らせする。

○住之江工場建物等調査結果では、コンクリート中性化対策が必要とのことであるが、外壁や構造体は大丈夫との理解で良いか。また、中性化が進んでいるごみピットの壁は全面的にやり替えるのか。

→薬剤等による中性化対策を実施することにより、利用可能と考えている。

○住之江工場の建物を利用することを前提に計画を進めるのか。

- 建物をなるべく利用したいと考えているが、どのような利用が可能なのかプラントメーカーの意見を伺いながら検討していきたい。
- 現在の住之江工場は2世代使用するつもりで建物を作ったということだが、経緯が分かれば参考になる。
- 住之江工場は、天井を取れば設備の入れ替えが可能となるよう、焼却炉を自立させる設計がなされている。当時は、25年から30年くらいで設備の入れ替えをし、建物は50年くらい使用できると考えていた。
- 検討を進めていく中で、耐水性、耐震性、工期を考慮し、全部解体して建替えした方が有利であることが明らかに判明した場合は、昭和63年のときの方針と違うことをするということもあり得る。
- 建物の再利用に固執して結果的に高くつくということは良くない。
- 建屋自体の健全性や安心・安全を基本に総合的に検討していくことで良いか。
- 了解。

(2) 「住之江工場更新計画に係る既存建物の利活用調査」実施要領(案)について

- 昭和63年に竣工して、平成35年の竣工からさらに30年稼働すると、通算70年くらいの建物利用になる。建物は補強すると大丈夫ということか。
- 必要なメンテナンスを実施すれば利用可能と考えているが、必要に応じて建築専門家の意見も聞きながら検討していきたい。
- 利活用調査の際に竣工後30年間は使用することを明確に説明すること。
- ごみ焼却工場は他施設よりも酸性ガス等の影響を受けていると思われるので、中性化対策などで、安全側になるよう対応していただきたい。
- 災害対策で水槽や電気設備等の重量物を上階にあげると、建屋に負荷をかけることになる。焼却炉のように自立させるような設計も検討していただきたい。
- 実施要領の(2)調査内容の「⑥既存建屋を利用するにあたっての課題・問題点」の抽出が重要である。プラントメーカーに詳細な調査をしていただいで参考にするべきである。
- 既存建屋の再利用ありきではなくて、全面的な建て替えも含め、慎重な検討を行っていただきたい。
- 現地説明会の際に、課題や問題点の抽出ができるよう詳細な説明を行って意見を求めている。また、いただいたご意見を参考に検討していきたい。

(3) 住之江工場の処理方式について

- 二酸化炭素の排出量抑制が大きな環境問題となっている。
- 処理方式については、森之宮工場検討時から状況に大幅な変化が見られないので、前回の検討結果を尊重する方向で進める。
- 過熱器管の減肉について、プラントメーカーにより差があり、問題となっている事例もあると聞くので、注意して検討していきたい。

(4) 住之江工場における計画ごみ質の決定について

- ごみ排出量の予測に人口の増減が考慮されているのか。
- 近年のごみ排出量の推移は人口の増減と比例しておらず、予測以上にごみの減量が進んでいる。
- 現在の都市インフラとして、災害ごみが受け入れられることができるように強く言われおり、ごみの形状が大きくても受け入れることを加味しておくべきである。
- 事務局提案の発熱量やごみ組成は妥当な数字となっている。